



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2008.5

No. 289

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



シラコバトを見た！

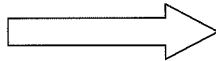
研究部・普及部・編集部

と、いう情報をお寄せください。

言うまでもなく、シラコバトは天然記念物であり、埼玉県民の鳥であり、私たちの支部報名です。県内では市の鳥に指定しているところもあります。そのシラコバトの現状を把握するために、今年の繁殖期（5月10日～7月10日）と越冬期（2008年12月1日～2009年1月31日）に、茨城県、群馬、栃木県、千葉県、東京、埼玉県の各支部が、一斉に共同でシラコバトの分布と個体数を調査します（参照 『しらこぼと』2007年12月号及び2008年1月号）。

本格的な調査はシラコバト調査員が行います。しかし、より正確に、より効果的に調査を進めていくためには、より多くの「シラコバトを見た」情報が必要です。バードウォッチングの時に限らず、散歩の途中で、家事の合間に、あるいは仕事にふと目にした、耳にした情報をお寄せください。

見た！いた！



連絡

その時同時に以下の点にも留意して、記録しておきましょう。特に①と③の情報は重要です。

- ① 年月日（調査期間以前、或いは以外の情報も大切です）
- ② 時間（午前・午後〇〇時頃）
- ③ 場所（今回の調査の対象地域は、右ページ地図の白抜き部分です。情報があつた地域には、後日、調査員が調査に向かいます。そのため番地や目印、又は地図で確認できる目標物など、できるだけ詳しく確認しておきましょう）
- ④ 個体数（「〇羽以上」「約〇羽」「〇羽以下」など）
- ⑤ 環境（田畑、住宅地、商業地、工業地、河川敷など）

あなたの「シラコバトを見た」情報を活かすために、「見た！いた！」の①～⑤を是非、連絡してください。連絡先と連絡方法は以下の通りです。なお、連絡方法は整理の都合上、郵送、FAX、メールのいずれかでお願ひします。

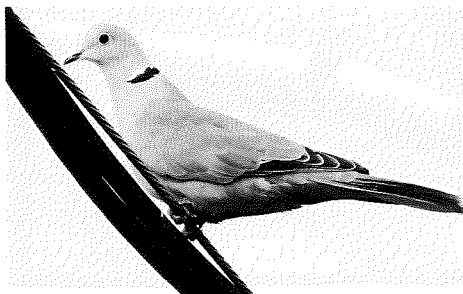
郵送…〒330-0064 さいたま市浦和区 岸町 4-26-8-107 日本野鳥の会 埼玉県支部 研究部宛

FAX…048-825-0460 日本野鳥の会埼玉県支部 研究部宛

メール… 普及部
橋口宛（アドレスの0は数字です）
…toridayori@hotmail.com 野鳥情報 編集部宛

この調査は、関東各支部の共同調査とはいえ、当然、埼玉県支部（研究部、普及部中心）が調査をリードする立場にあります。そのためにも、一人でも多くの「シラコバトを見た」情報が欲しいところです。

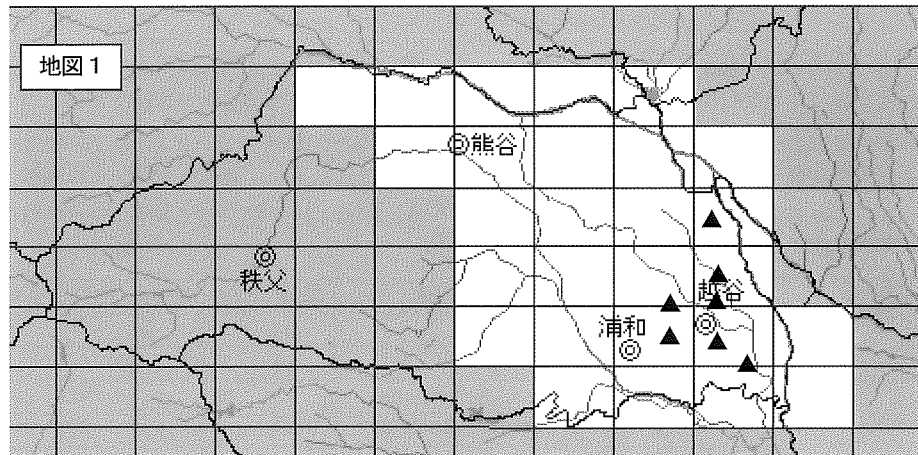
なお、この調査と並行して、今年の夏鳥調査（5月10日～7月10日）の注目種もシラコバトです。5月10日～7月10日の情報であれば、夏鳥調査報告の葉書が利用できます。葉書は6月号に同封予定です。合わせて、ご協力をお願いします。



撮影 山部直喜

第2次県内野鳥分布調査 2007/2008年冬 報告(注目種 シラコバト)

日本野鳥の会埼玉県支部研究部



本調査は、期間 [2007年12月1日～2008年1月31日]、方法 [調査葉書によるアンケート他]、調査葉書 [60通]、支部定例調査 [30メッシュ (3次メッシュ、以下同じ)]、調査メッシュ [88メッシュ] により実施された。その結果、調査葉書8通より、今回の注目種シラコバト生息7メッシュを得た。これは、1985年～1990年の第1次調査 (5年間の冬鳥積算データではあるが) で得られたシラコバト生息36メッシュと比較すると激減といえる。

今回の結果を1:25,000地形図を縦横4分割して示すと地図1の▲になる。

シラコバト調査員



『しらこばと』3月号でシラコバト調査実施研修の開催を案内したところ、約20名の方が応募されました。当日は、松伏町のまつぶし緑の丘公園で、研究部、普及部からの調査方法の説明と実技研修を受講しました。

しかし、埼玉県支部の受け持ち範囲は非常に広く、さらに多くの調査員が必要です。経験は問いません。参加してみようという方は、普及部の橋口まで連絡ください

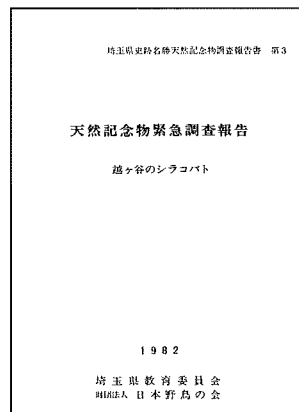
要な書類等をお送りします。

そして調査に参加しよう

参加方法は3つです。

- ①「シラコバトを見た」情報を連絡
- ②夏鳥調査の報告
- ③シラコバト調査員に応募

今回の調査は、激減しているシラコバトの将来を占う上でも重要といえます。多くの会員の皆様の参加を願っています。



参考：左の報告書は、シラコバトを語る際に、まず最初に手にする報告書です。図書館で読むことができます。是非、ご一読を！

2007年冬 カワウの生息数調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

2007年1月6日～8日、カモ科調査と同時に実施されたカワウの昼の生息数調査を報告する。

カワウを取り巻く社会環境は、本年4月より

- 狩猟鳥化

- 埼玉県レッドデータブックより削除
- 有害鳥獣捕獲の許可権限が県から市町村へ移管

と大きく変化した。保護対象種から狩猟対象種と変わった2008年の生息数が注目される。(小荷田行男)

調査地	調査範囲	地域	2004	2005	2006	2007	合計
入間川	豊水橋～新富士見橋	狭山市	2	2	5	3	12
	初雁橋～雁見橋	川越市	5	-	-	-	5
荒川	荒川鉄橋～戸田橋	戸田市 川口市	3	300	165	6	474
	道満(荒川第一調整池)	戸田市・さいたま市	136	503	193	79	911
	秋ヶ瀬橋～羽根倉橋	さいたま市	3	5	0	0	8
	南畑排水機場びん沼川	さいたま市・富士見市	9	6	0	29	44
	荒川大橋～明戸堰	熊谷市	-	6	4	-	10
	玉淀ダム	寄居町	2	0	0	7	9
そうか公園	池全部	草加市	6	0	1	-	7
古利根川	寿橋～堂面橋	越谷市・松伏町	2	5	3	1	11
	藤塚橋～古利根橋	越谷市・春日部市	-	0	5	-	5
利根川	坂東大橋下流	本庄市	-	8	46	6	60
渡良瀬遊水地	貯水池	北川辺町	307	992	459	883	2,641
狭山湖	湖全部	所沢市	-	68	3	8	79
小畔川調整池	池全部	川越市	1	0	0	0	1
新河岸川	川崎橋～寺尾調整池	川越市	3	1	7	2	13
大宮第三公園	池全部	さいたま市	-	-	-	5	5
大吉調整池	池全部	越谷市	-	-	-	6	6
百穴湖	池全部	吉見町	7	5	3	16	31
武蔵丘陵森林公園	公園内の池全部	滑川町	136	191	19	112	458
大沼公園	大沼	熊谷市	0	0	0	0	0
川越水上公園	池全部	川越市	-	2	15	8	25
八丁湖	池全部	吉見町	4	-	0	0	4
県立農林公園	芳沼	深谷市	0	0	0	0	0
昭和沼	久喜菖蒲公園	久喜市	42	24	63	41	170
さきたま古墳	古墳の池全部	行田市	2	0	0	0	2
白幡沼	沼全部	さいたま市	0	0	0	0	0
見沼自然公園池	池全部	さいたま市	3	0	1	3	7
柳瀬川	富士見橋～栄橋	富士見市・志木市	1	1	1	1	4
黒浜沼	上沼	蓮田市	0	8	4	-	12
元荒川	城北大橋～水管橋	さいたま市	2	0	1	2	5
赤堀遊水池	池全部	桶川市	20	22	18	15	75
緑の丘公園	池全部	松伏町	-	-	0	0	0
宝蔵寺沼	池全部	羽生市	-	-	1	10	11
越辺川	八幡団地前	川島町	-	-	8	6	14
合計			696	2,149	1,025	1,249	5,119

小翼羽の働き

長嶋宏之(蓮田市)

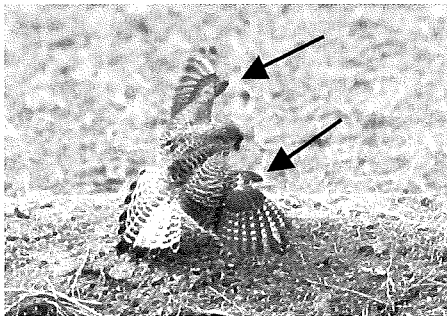
鳥の体の各部は飛ぶ為に特化していると聞く。飛ぶ為に特化しているなら、鳥の各部は何らかの働きをしているはずだ。では「小翼羽」はどのような働きをしているのだろうか？

このことについて解説している図鑑は少ないのだが、〈実物大・識別図鑑 野鳥の羽根 笹川昭雄著 世界文化社 1995年発行〉に次のように記されているので紹介する。

小翼羽：これは第1指骨から出ている羽毛で本来は初列風切羽と対等のものである。丸みを帯び、小さく、枚数も3～4枚にすぎない。しかし、大型・小型の鳥や山野の鳥、水辺の鳥、海鳥など種類によって形は変わってくる。この小さな数枚の羽は滑空、飛翔の時に安定に対しての働きをしたり、着地、着水あるいは枝にとまったりする時に次列風切羽や尾羽とともに使用される大切な羽である(同図鑑より抜粋)。

なんと、現在の流体力学や機械工学の粋を集めて設計される飛行機のスラットと同じ働きではないか。

技術の到達点か、結果的に鳥の体に似たのか、鳥の体から技術屋が学んだのかは判らぬが、鳥の体の機能性に改めて驚かされるのである。



小翼羽を広げて着地するチョウゲンボウ雄の若鳥(2008,01 川里にて撮影 長嶋)

中川正夫

見沼自然公園にて

天離る鄙なる見沼今日も来ぬ
ケリの出向い皆おどろきぬ

熱川さくら祭にて

寒桜梅となかよく熱川や

バードウォッチャーの魂

榎本秀和(鴻巣市)

明治時代、軍人が使用する双眼鏡は、官給品ではなく私物であったとか。当時の軍人は双眼鏡に対し、刀に代わる「武士の魂」と言う感情を抱いていたのだそうだ。

かのアドミラル東郷が日本海海戦に臨んだときに身につけていた双眼鏡も、日本に数台しかなかったツァイスを個人で買い求めた物と聞く。

このたび私は、20年来の双眼鏡を新しく買い換えた。長年の愛着は拭いがたいが、目の衰えを道具で補う必要を感じ始めていたからだ。

新しい双眼鏡は、ニコンの迷彩モデルだ。武士の魂ならぬバードウォッチャーの魂が改まった感じがして、なんともウキウキの今日この頃である。

渡良瀬遊水地ラムサール条約登録を目指すシンポジウム

日時 2008年5月18日(日)

13:30~17:00 (開場13:00)

会場 栃木県小山市文化センター大ホール
(小山市役所隣・市役所駐車場使用可)
テーマ 「みんなで考えよう 渡良瀬遊水池の賢明な利用」

第1部 柳生博さんに聞く「コウノトリの舞う里」

第2部 パネルディスカッション
パネリスト

柳生 博氏((財)日本野鳥の会会長)

千葉 俊朗氏(蕪栗沼ぬまっくらぶ会長)

花輪 伸一氏(WWF J)

田所 正氏(国交省利根川上流河川事務所
所長)

河地 辰彦(野鳥の会栃木県支部長)

入場無料(資料希望者は資料代500円)

事前申し込み不要

主催 野鳥の会栃木県支部、渡良瀬遊水池を
ラムサール条約登録地にする会

共催 (財)日本野鳥の会

問合せ 浅野正富法律事務所

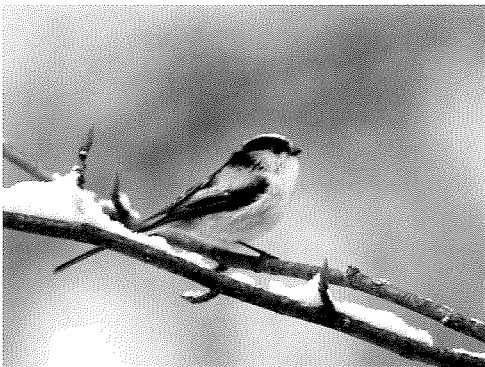
TEL

日本湿地ネットワークが主催する「干潟・
湿地を守る日2008」の登録イベントです。



野鳥情報

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇11月20日、キクイタダキ、エナガ、ヤマガラ。11月25日、カケス1羽久しぶり。今年は少なめ。エナガ4羽は「ジュルル…」と鳴き交わしながら枝から枝へ。ベニマシコ♀1羽確認。淋しげな「フィフィ」の声、ウソに間違いないが声のみ。カシラダカ初認。11月26日、オオタカ若鳥がカラスたちに追われて飛び去ったと思ったら、東はるか上空に別のオオタカが舞っていた。11月28日、ヤマガラ1羽、エナガ5羽+は確認できたが、キクイタダキは確認できなかった。元荒川はカモが少なく淋しい限りだが、今日はヒドリガモ110羽+でにぎやか。イカルチドリ2羽も佇む。12月2日、アリスイの「クィクィ」の声で姿も確認、やはり2羽いそう。エナガの群れとヤマガラの「ニーニー」の声。笹藪2ヶ所から「ゲッゲツ」とルリビタキの声。12月5日、もういなくなったと思っていたエナガとキクイタダキを確認。暗い水路の所でルリビタキ♀。灌木で動くアリスイをじっくり観察。12月9日、元荒川に見慣れないカモがいた。スズガモ♀と確認。30分後にはいなかった。12月21日、カイツブリ、アオサギ、ダイサギ、コガモ、カルガモ、イカルチドリ、タシギ、カワセミ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、モズ、ルリビタキ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、シメ、カケスなど29種。



エナガ(松村禎夫)

12月23日、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コガモ、カルガモ、イカルチドリ、カワセミ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、モズ、ルリビタキ、ジョウビタキ、アカハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、ベニマシコ、シメなど30種。2月5日、カイツブリ、ゴイサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オオタカ、チョウゲンボウ、イカルチドリ、タシギ、カワセミ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ジョウビタキは♀ばかり4羽、シロハラ、ツグミ、ヤマガラ4羽、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリンなど35種(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区野孫 ◇2月6日、ケリ3羽、タゲリ2羽(鈴木紀雄)。

蓮田市黒浜沼 ◇1月8日、上沼でカワウ11羽、コガモ、オオバン4羽、カイツブリなど。なぜかカルガモの姿なし。オナガ30羽とヒヨドリが水路で水浴び。カワセミはエサとり(鈴木紀雄)。

蓮田市黒浜東埼玉病院 ◇1月17日、キクイタダキ5~6羽。カシラダカ多数。シメ、コジュケイ、ツグミ多数、アオジ多数、カワラヒワ。タシギ2羽がふいに足元から飛び出して、鋭角に飛んだ。速く鋭い飛び方だった。1月20日午前10時頃、キクイタダキ4~5羽の群れが少なくとも3群。赤松の木の周辺にやってきて、頭の黄色も見せてくれた。2月8日、ルリビタキ♀、タシギ、シメ、エナガ、メジロ、アオジ、アトリ、コゲラ、コジュケイの声。2月22日、ルリビタキ、エナガ、アトリ、アオジ、メジロ、コゲラ、キクイタダキ、カシラダカ多数、シメ多数、ツグミ多数、タシギ飛び立つ。コジュケイがガソゴソと歩いていた。数えたら6~7羽いた。何と多彩な日であろう(本多己秀)。◇2月7日、エナガ2羽が先導するように樹間を移動。ツグミにしては、大きめの鳥が飛び出して茂みの中へ。透かして見たらトラツグミ!久しぶり。その他カシラダカの群れなど(鈴木紀雄)。

蓮田市笹山 ◇2月14日、用水沿いの畔の草地でウズラ♀1羽発見。独特の背中模様。白い縦斑は体表面から波頭のように盛り上がっている。せわしく採餌しつつ、短い脚で腹を下にすりつつ、でもピョコピョコと意外な速さで進む。車中から数mの距離で20分程観察（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区膝子 ◇2月15日、農耕地でホオアカ1羽、ミヤマガラス約20羽（鈴木紀雄）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇2月15日、子供の森でキクイタダキ約5羽、エナガ2羽、シロハラ、アオジなど。シメが多い（鈴木紀雄）。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇1月20日、昭和沼でヨシガモ5～6羽、カンムリカイツブリなど。2月8日、同所でカンムリカイツブリ、カイツブリ、ミミカイツブリ、ヨシガモ、タシギ（本多己秀）。

北本市石戸宿 ◇2月2日、亜種ハチジョウツグミ1羽。胸から下尾筒にかけて赤褐色の斑点がなかなかキレイな個体。日本国内では少ない。自然学習センターの記録によると1月22日を初認としている（榎本秀和）。

春日部市武里中野（旧中野） ◇2月3日午後3時55分頃、みどり住宅内の東側遊水地にて降雪の中、タゲリ1羽飛来し採餌。2月17日午後2時33分、みどり住宅内の東側遊水地の土揚場でタゲリ1羽飛来し採餌（石川敏男）。

春日部市内牧第二公園 ◇2月7日午後、雑木林内の地面でシメの群れ、50～60羽、盛んに採餌しては何か驚き近くの枝に飛び移るのを繰り返す。キジの雄が屋敷林内で、「ゲエ、ゲエ、ゲエ、ゲエ・・・」と鳴く。警戒声か？（石川敏男）。

春日部市内牧、さいたま市岩槻区鹿室 ◇2月7日午後2時～3時半、水と緑のヘルシーロードの起点付近、白岡町太田新井の3地区が接する場所。黒沼用水を挟んで東はこんもりした雑木林、西はアシの生える湿地と盛り土の荒地が広がるところでオオジュリン、アオジ、ホオジロ、ツグミ、シロ

ハラ、ジョウビタキ、メジロ、コゲラ、キクイタダキ、ハシボソガラス、チョウゲンボウ、ウグイス、コガモ、カルガモ、マガモ、カワセミ、バン、ムクドリ。2月17日午前11時45分頃～午後1時頃、緑のヘルシーロードの起点周辺でベニマシコ1羽、♂と思われる個体が「フィ、フィ、フィ」と断続的に鳴いて出現、しばらく留まっていた。小さい沼池にはコガモ、マガモ、カルガモが休息。黒沼用水沿いのフェンスには、ジョウビタキ、ルリビタキ、シロハラ、ツグミが雑木林から出てきて止まり、時には舗装した小道で採餌。こんもりした雑木林内には、キクイタダキ、エナガが群れていた（石川敏男）。

春日部市大落古利根川 ◇2月10日午後、藤塚橋～ゆりのき橋間でアオサギ、ダイサギ、イソシギ、コガモ、カルガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、ユリカモメ、セグロカモメ、カイツブリ、ハクセキレイ、ツグミ、ムクドリ、メジロ、ハシボソガラス、モズ、キジバト。古利根川右岸（西岸）の堤に接する緑小学校校庭内の鶏小屋付近でシラコバト3羽（石川敏男）。

渡良瀬遊水地 ◇1月1日、カワウ超多数、カンムリカイツブリ、カルガモ、マガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、ミコアイサ約30羽、カワアイサ♂2羽♀1羽、カイツブリ、セグロカモメ、トビ、ノスリ、チュウヒ5羽、チョウゲンボウ1羽、ミサゴ3羽。夕刻までいられず、ハイロチュウヒなど見られず（鈴木紀雄）。

桶川市若宮 ◇2月21日午前6時50分、ウグイスの初鳴き。自宅近くの北側垣根、まだ寒い北風が吹く中、上手くない声で「ケチョケチョ、ホーケチョ」とさえずる。姿とも確認した。昨年のは2月23日でした（立岩恒久）。

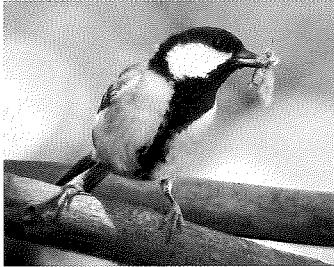
表紙の写真

スズメ目ヒタキ科キビタキ属
マミジロキビタキ

柳 清二（大利根町）



行事案内



シジュウカラ(編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

さいたま市・秋ヶ瀬自然観察会

期日：5月3日(土・祝)

集合：午前9時、秋ヶ瀬公園ピクニックの森駐車場。

交通：浦和駅西口から大久保浄水場行きバス 8:20 発、または東武東上線志木駅東口から与野西口行きバス 8:25 発で、「下大久保」下車、徒歩約8分。

担当：小荷田、佐久間、杉原、藤田(敏)、舟木

見どころ：テーマは、「外来植物の自然史」。外来植物の歴史を振り返り、その侵入方法、ルートなどの諸特性を知り、ピクニックの森に見られる外来植物の種名やその生育環境条件を考えよう！ミニテキスト「外来植物の自然史」を配布します。あれば植物図鑑をご持参ください。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日(月・祝)

集合：午前9時30分、JR武蔵野線南船橋駅改札口付近。

交通：JR武蔵野線武蔵浦和 8:27→南浦和 8:30→南船橋 9:21 着。

担当：杉本、手塚、菱沼(一)、長谷部、伊藤(芳)、野村(修)、大塚

見どころ：春の渡りのシギ・チドリで干潟が華やかになります。埼玉県内ではなかなかみられない風景です。初めての方もぜひお出かけください。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月6日(火・振休)

集合：午前8時40分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：田中、玉井、吉安、長嶋、長野、菱沼(一)、榎本(建)、青木

見どころ：元荒川の川島橋をスタートし、黒浜沼(環境学習館)までの片道コースです。田んぼでムナグロを、沼周辺でコアジサシやキジなどを探します。ほかにシギ、オオタカ、カワセミも期待したいですね。

東京都・三宅島探鳥会(要予約)

期日：5月9日(金)～11日(日)

定員に達したので締め切りました。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月11日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：中里、森本、大澤、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鶴飼

見どころ：新緑の香りをいっぱいのせた風が土手を渡り、青葉の梢ではホオジロが胸を張り、高らかにさえずっています。足下にも草花がいっぱい。さわやかな大麻生にどうぞお出かけください。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：5月17日（土）

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花崎駅改札口前、または午前9時、加須はなさき公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部8:21→久喜8:34→花崎8:41着。またはJR宇都宮線大宮7:57→久喜8:23着で東武伊勢崎線に乗り換え。

担当：青木、中里、内田、長嶋、宮下、栗原、四分一、植平、長谷川、小林（正）

共催：加須はなさき公園管理事務所

見どころ：ツバメ、ホオジロ、シジュウカラ、もしかしたらキビタキも。初心者大歓迎。トイレ完備の安心コースです。

秩父市・三峯神社探鳥会（要予約）

期日：5月17日（土）～18日（日）

定員に達したので締め切りました。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：5月17日（土）午後3時～4時ころ

会場：支部事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：5月18日（日）

集合：午前8時15分京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、舟木

見どころ：5月の探鳥会は、渡って来たカッコウたちが追いかけてこ。子育てのシジュウカラも桜並木で行ったり来たり。芝川の工事も終わり小さな命が生まれています。セッカの声を聞きながら、子育て中の鳥たちと出会います。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：5月24日（土）～25日（日）

定員に達したので締め切りました。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：5月25日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越8:40発、または所沢8:33発に乗車。

担当：長谷部、高草木、中村（祐）、山本（真）
久保田、石光、山田（義）、山口、星
見どころ：入間川に渡ってきた夏鳥たち。ササゴイ、オオヨシキリ、コチドリを探しましょう。
また、子供を連れた鳥にも会えそうです。

茨城県・浮島湿原探鳥会（要予約）

期日：6月14日（土）

集合：午前7時45分、JR大宮駅西口ソニックシティー大ホール前広場。

交通：往復とも貸し切りバス利用。

帰着：午後6時頃、JR大宮駅西口。

費用：5,000円の予定（バス代、高速料、博物館入館料、保険料など）。過不足の場合は当日精算。

定員：25名（先着順、当支部会員優先）。

申し込み：普通はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記して、榎本秀和（ ）まで。

担当：榎本（秀）、中里、植平

見どころ：1999年以来久しぶりの浮島です。コジュリン、コヨシキリ、オオヨシキリのコーラスと湿原のノハナショウブを楽しみましょう。帰路には我孫子市鳥の博物館も見学。雨天決行です。



2月11日市民の森探鳥会(田中幸男)



行事報告

11月25日(日) さいたま市 秋ヶ瀬

参加：16名 天気：快晴

カワウ カルガモ キンクロハジロ コゲラ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ マヒワ シメ スズメ カケス ハシブトガラス (17種) 今回の自然観察会は「ラインセンサスー鳥の数の調べ方」。2km/hで歩き、センサスルートの前方と左右25mの幅に出現した鳥の種名、数、確認手段(さえずり、地鳴き、姿)を出現順に調査用紙に書いていく。鳥の生息密度を定量的に調査するため、同一季節に同一コースを同一条件でラインセンサスすれば調査地域の実施当初年に対する鳥の増減がわかる。参加者を5人ずつのチームに分け、チームごとに500mのセンサスルートにチャレンジ。3チームでピクニックの森の周回コースを1周。途中、マヒワの群れやカラ群が通過、立ち止まりたくなる気持ちを抑え、初ラインセンサスを体験。「慣れればラインセンサスは難しくない」との感触を得たようだ! (小荷田行男)

11月25日(日) 狭山市 入間川

参加：34名 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ホシハジロ トビ イカルチドリ ケリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス セッカ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 久しぶりの冬鳥たちとの再会を楽しみに川原を歩き出す。ジョウビタキやツグミ、カシラダカなどが現れ、本格的な冬鳥のシーズンに期待が膨らむ。川原を離れ稲荷山公園へ向かう直前、ケリが出現。予想外の出来事にビックリ。一度飛んだが遠くまで行かず、みんなで見る事ができた。入間川探鳥会では、初記録。(長谷部謙二)

12月1日(土) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加：34名 天気：晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ スズガモ ミコアイサ ミサゴ トビ ノスリ チュウヒ キジ オオバン ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス セッカ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ コクマルガラス ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス (46種) 谷中湖ではワカサギが相変わらず釣れ、釣り人が多い。おまけに北ブロックはカヌーの講習会。水鳥たちは速く離れていて観察などという雰囲気ではなかった。それでもカンムリカイツブリは数を増し、ハジロカイツブリやミコアイサの♀、中ノ島付近ではマガモ、オナガガモ、カワセミ、オオジュリン。そして青い大空にコハクチョウ4羽が飛び、浮島を見るとチュウヒがゆっくりと独特の形で飛んでいる。その後もタヒバリ、セッカ、ベニマシコ、アオジ、ホオジロと小鳥たちが顔を出してくれた。(内田孝男)

12月2日(日) 北本市 石戸宿

参加：52名 天気：晴

カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ ノスリ コジュケイ キジ クイナバン キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス キクイタダキ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ カケス ハシブトガラス (34種) 風も無く、小春日和のノンビリ探鳥会。雑木林の注目種はキクイタダキ。メジロの群に混ざっているのが確認された。アシ原のあちこちではクイナが鳴き交わっていて全員で姿も確認でき、お目当てのベニマシコも雌雄で出現してくれた。(浅見 徹)

12月2日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：61名 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オオタカ チ

ヨウゲンボウ バン ユリカモメ セグロカモメ
 キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セ
 グロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョ
 ウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メ
 ジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュ
 リン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ
 ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37
 種) このところよく顔を出しているベニマシコが、
 探鳥会にも出てくれた。いつもは鳥の少ない芝川
 でもたくさんの鳥たちとの出会いがあり、参加さ
 れた皆さん、ある程度満足していただけたようだ。
 ただ、その後の「車上荒らし」(2月号「連絡帳」
 欄)は非常に残念だった。(伊藤芳晴)

12月8日(土) 所沢市 狭山湖

参加: 36名 天気: 晴

オオハム シロエリオオハム カイツブリ ハジ
 ロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ア
 オサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ
 ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ ト
 ビ オオタカ キジバト コゲラ ハクセキレイ
 タヒバリ ヒヨドリ ルリビタキ ツグミ ウグ
 イス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ
 アオジ カワラヒワ スズメ ハシボソガラス
 ハシブトガラス (33種) 当地では極めて珍しいオ
 オハムとシロエリオオハムが1ヶ月前から滞留中。
 遠かったが、両種の識別点をチェックしながらた
 っぷり観察できて、大いに盛り上がった。この先
 どんな珍客が入ってくるのか、楽しみな狭山湖
 のシーズン幕開けとなった。(石光 章)

12月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 26名 天気: 晴

カイツブリ ダイサギ アオサギ トビ オオタ
 カ ノスリ イソシギ キジバト コゲラ ヒバ
 リ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ
 タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグ
 ミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ
 カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ
 シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシ
 ブトガラス (31種) 先ずはオオタカが出迎えて
 くれた。土手に出ると強い北風が吹いていた。鳥た
 ちも飛び辛そうだった。風を避けてゴルフ場の南
 側のアシ原に進んだ。ベニマシコが鳴いているが、
 なかなか姿を見せてくれない。幸運な数人の人だ

けが見られたようだ。それにしてもツグミ類が少
 ない。どうしたことだろう。最後にノスリが舞っ
 て締めくくってくれた。(中里裕一)

12月9日(日) さいたま市 岩槻文化公園

参加: 58名 天気: 晴

カイツブリ カワウ カルガモ コガモ トビ
 チョウゲンボウ セグロカモメ キジバト カワ
 セミ アリスイ コゲラ ハクセキレイ セグロ
 セキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビ
 タキ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカ
 ラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シ
 メ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブ
 トガラス (30種) 開始早々ヤマガラが出迎えてく
 れる。村国池ではアシに止まるカワセミを発見。
 まるで置物のように長時間じっとして、いつ
 のまにか参加者の注目は、順光に羽根が輝くカワ
 ラヒワへ。テストコースでツグミを見ていると、
 「下にアリスイがいるよ」とベテランNさんの声。
 探鳥会が始まる前に「見つけてくださいよ」と頼
 んでおいた甲斐があった。感謝。(長野誠治)

12月12日(水) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 39名 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツ
 ブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マ
 ガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガ
 モ ヒドリガモ オナガガモ キンクロハジロ
 ミコアイサ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ
 ハイロチュウヒ チュウヒ チョウゲンボウ
 キジ クイナ オオパン ユリカモメ セグロカ
 モメ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレ
 イ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ
 ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ
 メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュ
 リン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ
 ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガ
 ラス (53種) 谷中湖では釣り人が多いためかカモ
 が遠く数少ないが、人気の高い白いミコアイサは、
 中の島から3羽見つけることが出来た。ブイ
 に止まっているオオタカ成鳥をはじめ、ミサゴ、
 チュウヒ、ハイロチュウヒ、ノスリなどが次々
 と飛翔してくれた。アシ原や木立の小鳥たちも多
 く、観察種が50の大台を久しぶりに超えた。暖か
 い日差しの下、充分楽しめた。(玉井正晴)



●ヒナを拾わないで!!

今年も(財)日本野鳥の会などが共催する「ヒナを拾わないで!!」キャンペーンの季節になりました。野鳥のヒナが地上にいても、拾わないでください。落ちていてはなくて、降りているのです。迷子になっているのではなく、親鳥が近くにいる、人がいなくなるのを待っているのです。ヒナはそのままにして、できるだけ早くその場から離れてください。ネコやカラス、車などが心配なら、ヒナを近くの茂みなどに移動することはできます。親鳥はヒナの声で居場所がわかりますから。自然の世界で生きていけるように、人が鳥のヒナを育てることはできません。何とか元気に育てて! 祈りながら、そのままにしておきましょう。

●『野鳥』誌5月号プレゼントキャンペーン

5月10日から16日はバードウィーク。そこで「年間鳥見歴5月～10月編」を特集した『野鳥』5月号を希望者に無料プレゼント。
①郵便番号・住所 ②氏名 ③電話番号
④どこでこのキャンペーンを知ったか」を明記、〒141-0031 品川区西五反田3-9-23 丸和ビル(財)日本野鳥の会5月号プレゼント係
E-mail:kikaku@wbsj.org FAX:03-5436-2636 まで、はがき、メール、FAXのいずれかでお申し込みください。電話での受け付けはしていません。先着順で発送、在庫がなくなり次第終了します。会の案内などお届けする場合があります。

●本部評議員会に出席

3月8日(土)都内品川区で開催された本部評議員会に橋口長和普及部長が関東ブロック選出の評議員として出席、20年度予算・事業計画の同意に関する議論などに加わりました。

●普及活動

2月21日(木)さいたま市片柳公民館で開催されたバードウォッチング教室で、一般公募で集まった16名に対し、松村禎夫・赤坂忠一が指導しました。

●国立国会図書館に本誌納入準備

国立国会図書館から『しらこぼと』を納入してほしいとの依頼が届きました。創刊号からのすべてのバックナンバーをそろえて納入しようと、準備を始めました。

●会員数は

4月1日現在2,237人です。

活動と予定

3月8日(土)4月号校正(大坂幸男・喜多峻次・山田義郎)。

3月16日(日)役員会(司会:持丸順彰、各部の報告・本部新制度検討委員会一次答申に対する意見・その他)。

3月17日(月)本部新制度対応検討委員会の一次答申に対し、支部として意見書を提出。

3月24日(月)「支部報だけの会員」に向けて4月号を発送(倉林宗太郎)。

●事務局の予定

5月3日(土)編集部・普及部・研究部会議。

5月10日(土)6月号校正(午後4時から)。

5月17日(土)袋づめの会(午後3時から)。

5月18日(日)役員会(午後4時から)。

編集後記

鴻巣公園のさくらも満開になりました。早朝はヒヨドリが我が世の春を桜花で謳歌、若い2人は夜桜&携帯で謳歌、団塊のおとうさんは黄桜片手にブツブツ、「冷えるなー」。(内藤)

城ヶ島海鳥観察グループのHPを見ていたらじっとしてられなくなり、支部の探鳥会で行ったばかりの城ヶ島へ。今季3回目。目の前でシロエリオオハムがバタ足泳ぎ!(みどり)

しらこぼと 2008年5月号(第289号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamazekuzoku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社